

平成29年度

海洋教育パイオニアスクールプログラム

成果報告書1

<海洋教育のデザイン>

「宇久井の海から見つめる世界」

～地域を学ぶ体験活動を通して～

和歌山県

那智勝浦町立 宇久井中学校

宇久井中学校「海洋教育のデザイン」

1. 学 校 名 和歌山県 那智勝浦町立宇久井中学校

2. 活動テーマ名 宇久井の海から見つめる世界 ～地域を学ぶ体験活動を通して～

3. 実施の概要・ねらい

本校は紀伊半島の南東部に位置し、吉野熊野国立公園の海岸地域の自然を代表する資源を有する宇久井半島を校区に持つ。地域は古くから漁業で栄え、宇久井の子どもは宇久井で育てるといふ気風が地域にはあり、「中学校は、鰯（ブリ）のはらわたで建てられた鰯学校」という言葉が残るほど、地域の人々は学校教育に理解を示し支援を惜しまない。

学校では以前より、地域の方々の協力を得ながら地元の自然を生かした教育活動に取り組み、豊かな心を持った生徒の育成に取り組んできた。しかし、近年の社会情勢の変化に伴い、子ども達の生活環境も変化してきた。漁業関係の職業に従事する保護者の割合は減り、生徒も海や山など自然の中で遊ぶことが少なくなり、身の回りにある地域の素晴らしい自然に気付かないでいる生徒も多い。そこで、海洋教育パイオニアスクールの指定を機に、例年実施している「宇久井半島を活用した海洋教育」とその年度に応じた「特別活動による海洋教育」を柱に、より効果的で継続的なものとなるよう、活動の再構築に取り組んでいる。

4. 実施計画

① テーマ・概要・活動計画・教科等との関連

1 学年 「宇久井の海から見つめる世界 ～地域を学ぶ体験活動を通して～」

柱	活動名	概 要	観 点	時 数	関連教科
1	地 玉 遠 足	地玉(じごく)と呼ばれる地元の磯で、自然(海洋生物・地質)観察と飯盒炊爨、清掃活動等を行い、地元の豊かな自然について学ぶ。	親しむ 知る 守る	8	総合 理科
1	千 尋 の 浜 クリーン作戦	千尋の浜と呼ばれる地元の海岸の清掃活動を行い、地形や植生に触れる。人為的なゴミの多さからマナーの大切さを感じる。	知る 守る	1	総合
1	宇久井半島 ウォークガイド	環境省管轄の『宇久井ビジターセンター』やボランティア団体『海と森の自然塾』の協力により、半島の誕生や森・海の自然、地域の歴史について学習する。	知る	6	総合 社会 理科
1	例大祭参加	宇久井例大祭(男子は御船漕ぎ、女子は神輿)に参加し、地域と海の繋がりを感じる。	親しむ 知る	—	
2	船 長 体 験	東京海洋大学学生による出前授業を受講。海と船に関する学習、手旗信号の実習、チャイニーズスクエアマットの製作等を行う。	知る	2	総合
2	鯨の博物館 見学	太地町にある「鯨の博物館」を訪問。学芸員クジラの生態・捕鯨の歴史の講座を受ける。館内展示・イルカショー・水族館を見学。	親しむ 知る	6	総合 社会

2 学年 「宇久井の海から見つめる世界 ～地域を学ぶ体験活動を通して」

柱	活動名	概要	観点	時数	関連教科
1	地玉遠足	地玉(じごく)と呼ばれる地元の磯で、自然(海洋生物・地質)観察と飯盒炊爨、清掃活動等を行い、地元の豊かな自然について学ぶ。	親しむ 知る 守る	8	総合 理科
1	千尋の浜 クリーン作戦	千尋の浜と呼ばれる地元の海岸の清掃活動を行い、地形や植生に触れる。人為的なゴミの多さからマナーの大切さを感じる。	知る 守る	1	総合
1	漁業講話	地元の漁師さんを講師に招き、地元で行われている漁法や獲れる魚の種類・料理法を知り、海の恵と共に海を大切にしてきた地域の文化や人々の苦労を学ぶ。	知る 利用する	4	総合
1	例大祭参加	宇久井例大祭(男子は御船漕ぎ、女子は神輿)に参加し、地域と海の繋がりを感じる。	親しむ 知る	—	
1	職場体験	職場体験学習で漁業協同組合・水産加工会社を選択し、2日間の体験学習を実施する。	知る	—	
2	船長体験	東京海洋大学学生による出前授業を受講。海と船に関する学習、手旗信号の実習、チャイニーズスクエアマットの製作等を行う。	知る	2	総合
2	鯨の博物館 見学	太地町にある「鯨の博物館」を訪問。学芸員クジラの生態・捕鯨の歴史の講座を受ける。館内展示・イルカショー・水族館を見学。	親しむ 知る	6	総合 社会
1	漁業現場体験	漁船に同乗させていただき、鰯(ブリ)の大敷網(定置網)漁の水揚げ作業を見学する。漁業に携わる人の苦労と水揚げの喜び、海からの恩恵を体感する。	知る 利用する	4	総合

柱1：例年行う宇久井半島を活用した学習 柱2：その年度に応じた特別な学習
宇久井例大祭への参加は、希望者による放課後の参加となる。
職場体験学習は、来年度以降は2年生のみで実施する。



1年宇久井半島
ウォークガイド



2年
漁業現場体験



全校
千尋の浜
クリーン作戦



3年
魚食体験

3 学年 「宇久井の海から見つめる世界 ～地域を学ぶ体験活動を通して～」

柱	活動名	概要	観点	時数	関連教科
1	地玉遠足	地玉(じごく)と呼ばれる地元の磯で、自然(海洋生物・地質)観察と飯盒炊爨、清掃活動等を行い、地元の豊かな自然について学ぶ。	親しむ 知る 守る	8	総合理科
1	千尋の浜 クリーン作戦	千尋の浜と呼ばれる地元の海岸の清掃活動を行い、地形や植生に触れる。人為的なゴミの多さからマナーの大切さを感じる。	知る 守る	1	総合
1	例大祭参加	宇久井例大祭(男子は御船漕ぎ、女子は神輿)に参加し、地域と海の繋がりを感じる。	親しむ 知る	—	
1	職場体験	職場体験学習で漁業協同組合・水産加工会社を選択し、2日間の体験学習を実施する。	知る	—	
2	南極観測船ふじ・名古屋港水族館 訪問	ガイドボランティアの解説で南極の自然や観測船の構造・意義、船内での生活について学ぶ。近隣の水族館とは違う展示物を楽しむ。	知る	6	総合理科
2	鯨の博物館 見学	太地町にある「鯨の博物館」を訪問。学芸員クジラの生態・捕鯨の歴史の講座を受ける。館内展示・イルカショー・水族館を見学。	親しむ 知る	6	総合社会
1	魚食体験	卒業のお祝い食事会を兼ねて、地元の漁業協同組合が提供してくれた鰯を、同組合婦人部の方々と一緒に料理し食事をする。海の恩恵を実感すると共に、地域の方々の卒業を祝う気持ちや学校に対する思いを感じる。	知る 利用する	2	総合家庭

② 実践の評価

いずれの活動もテーマに沿ったものであり、目標を達成するに値する活動であったと評価できる。ただし、例年実施している「宇久井半島を活用した学習(柱1)」においては、これまでの活動のノウハウが生かされスムーズに活動が行われ、ねらい通りの成果を上げる事が出来た。しかし、「その年度に応じた特別な学習(柱2)」においても、ボランティアガイドや講師がいる場合は期待通りの成果を上げたが、今年度初めて実施した「鯨の博物館の見学」は、学芸員による講義は生徒の学習を深めたものの、館内展示の見学等では教師側の下調べが十分ではなく、生徒をより深い学習に導く事が出来なかったのは残念であり、今後の課題である。

5. 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点

計画はほぼ予定通り実施する事が出来た。ただ、宇久井例大祭は台風接近のため当日の中学生の参加は見送られたが、前日まで地域の方々と一緒に練習に取り組み交流を深めた。

また、その年度に応じた学習として「鯨の博物館見学」「船長体験」「名古屋港水族館・南極観測船ふじ見学」を実施した。

② 実践の成果

事後指導の生徒の感想文や学習のまとめからは、活動を通して子ども達が地域の自然の豊かさを改めて実感したことが伝わってくる。学習は体験活動を柱としており、実際に自分の目で見たり、触れたりすることで、より強烈なインパクトを子ども達は受けているようである。特に、2年生が実施した漁業現場体験は印象的であった。活動は二班編成の二日間で行われたが、第一日目は潮の流れが悪かったため、漁業組合の配慮で予備の活動を行う事が出来たが、自然相手の漁業は、自分達の計画通りにはいかないことを学んだ。第二日目は、一転して今季一番の豊漁に遭遇。漁師さん達の声も弾み笑顔がこぼれ、船内に活気がみなぎる。20kgに迫る鰯の群れに子ども達は一斉に歓喜の声を上げ、海の恵を享受する喜びを体験した瞬間である。

現在行っている学習活動の中には、パイオニアスクールの指定を受ける前から取り組まれていたものもあるが、指定を受けたことでその活動のねらいがより明確にされ、それが教師間で共有されていることは大きい。指定を受けたことで海に関する学習の幅を広げることが可能となり、「海の時間」を教師が意識することで、子ども達もまた「海」をはじめとする「地域の自然」をより強く意識するようになったと考えられる。

海洋学習の取り組みの成果は、今年度の本校学校評価におけるアンケートからも窺える。生徒アンケートの「地域の人と行う学習や地域を活用した学習は楽しい」という問いには、86%の生徒が肯定的な回答をしている。また、保護者の98%が「学校は、地域の自然や施設、人材を活用して教育活動に取り組んでいる」という問いに肯定的な回答を寄せている。

③ 次年度への課題

課題は、「活動をいかに充実させるか」「活動をいかにして継続していくか」である。そのためには、何よりも今年の実践の反省点を次年度に生かせるようにすることが重要である。学習活動終了後には、活動の見直しを行い、次年度への申し送り事項として残すようにしている。また、年間カリキュラムの再編成も重要な課題である。実施学年、実施時期についても再考を要すると考えている。

6. 主な連携機関及び内容

- ・ 宇久井ビジターセンター&海と森の自然塾
宇久井半島ウォークガイド（第1学年）
- ・ 宇久井漁業協同組合
漁業現場体験（第2学年）、魚食体験（第3学年）
- ・ 宇久井神社
宇久井神社例大祭（全学年有志）

漁業講話（2年）



船長体験
（1・2年）



南極観測船ふじ
訪問（3年）

平成29年度
海洋教育パイオニアスクールプログラム
成果報告書2
＜海洋教育のストーリーマップ＞

「宇久井の海から見つめる世界」
～地域を学ぶ体験活動を通して～

和歌山県

那智勝浦町立 宇久井中学校

宇久井中学校「海の時間」のストーリーマップ

【学校全体の学習目標】

1. 宇久井半島での活動や海に関わる多様な活動を通じて、海の自然や文化に親しんだり、進んで海に関わろうとする。
2. 海における地震・津波の仕組みについて関心を持ち、理解したことをまとめ、表現することができる。
3. 宇久井半島の保全活動や調査を通して、積極的に環境保全について考え、行動することができる。
4. 水産物や資源、海に携わる仕事・人の調査を通じて、海の価値や社会との結びつきについて考えることができる。



【第1学年】 「宇久井の海から見つめる世界 ～体験を通して考える～」

○授業時数 4月～3月 23時間

○関連教科 総合、理科、

○学年目標

1：宇久井半島を活用した海洋教育（学習目標1.3）

① 地玉遠足（8）

- ・全校の縦割り班による活動（ガイダンス、班会議、班活動等）
- ・バーベキューを通じ、地元の豊かな自然の中での食事を楽しむことができる。 【親しむ】
- ・潮だまりの生物の観察から、地元の海洋生物に興味を持つことができる。 【知る】
- ・変化に富んだ地形の観察から、地殻運動など自然の力を体感することができる。 【知る】
- ・浜の清掃活動で自然および人工のゴミの違いを感じることができる。 【守る】

② 千尋の浜のクリーン作戦（1）

- ・清掃活動によるゴミの撤去だけでなく、海岸の地形や植生などの豊かさにも触れることができる。 【知る】
- ・人為的なゴミの多さからマナーの大切さを感じることができる。 【守る】

③ 半島ウォーク（6）

- ・地元の『ビジターセンター』『海と森の自然塾』の協力により、半島の誕生や森・海等の自然について学習をする。 【知る】
- ・体験したことを更に深め、まとめ、文化祭でプレゼン発表する。

2：その年度に応じた特別活動による海洋教育（学習目標1～4）

- ・H27 ジャムスティックの講話（津波のメカニズム、探査船ちきゅうの役割等）、防災教育の中での地震・津波等の学習 【知る】
- ・H28 ジャムスティックの船長講話（海洋での活動や資源について知る）、稲むらの火館を訪れ津波の怖さや対応を学習 【知る】
- ・H29 東京海洋大学の出前授業を受講（海の役割、船の種類、船員の仕事、手旗信号体験等々）、地域との共同防災学習（2） 【知る】
- ・H29 「太地くじら博物館」訪問（鯨の生態、捕鯨の歴史、イルカとの触れあい等）（6） 【知る・親しむ】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1：宇久井半島を活用した海洋教育</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2：その年度に応じた海洋教育</div> </div>											
探求的な活動	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①地玉遠足</p> <p>【知る・親しむ・守る】</p> </div> <div style="margin: 0 10px;">➡</div> <div style="text-align: center;"> <p>③千尋の浜のクリーン作戦</p> <p>【知る・守る】</p> </div> </div>											
表現活動	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>②半島ウォーク</p> <p>【知る】</p> </div> <div style="margin: 0 10px;">➡</div> <div style="text-align: center;"> <p>調べ、まとめ、発表（文化祭）</p> </div> </div>											

【第3学年】 「宇久井の海から見つめる世界 ～体験を通して考える～」

○授業時数 4月～3月 23時間

○関連教科 総合、理科、社会、家庭、道徳

○学年目標

1：宇久井半島や地元の漁業に関連した海洋教育（学習目標1・2・3）

- ① 地玉遠足（8） 【知る・親しむ・守る】
- ② 千尋の浜のクリーン作戦（1） 【知る・守る】
- ③ 魚食体験（2） 【利用する】
 - ・地産のブリを食する体験から、海の恩恵を実感する。【利用する】
 - ・地元漁業協同組合婦人部の方々の卒業を祝う気持ちを触れ合いの中から感じる。【利用する】

2：修学旅行の行程の中で実施する海洋教育（学習目標1～4）

- ・H27 沖縄の海の体験、防災教育の中での地震・津波等の学習
ジャムスティックの講話（津波のメカニズム、探査船ちきゅうの役割等）、
- ・H28 沖縄の海の体験（カヌーやバナナボート等のマリンスポーツを体験し、南国の海を実感する）
- ・H29 名古屋港水族館、南極観測船ふじ訪問（海の役割、船の種類、船員の仕事、手旗信号体験等々）、
体験したことを更に深め、まとめ、文化祭でプレゼン発表する。（6）

3：その年度に応じた特別活動による海洋教育（学習目標1～4）

- ・H27 ジャムスティックの講話（津波のメカニズム、探査船ちきゅうの役割等）、
防災教育の中での地震・津波等の学習 【知る】
- ・H28 ジャムスティックの船長講話（海洋での活動や資源について知る）、
稲むらの火館を訪れ津波の怖さや対応を学習 【知る】
- ・H29 「太地くじら博物館」訪問
（鯨の生態、捕鯨の歴史、イルカとの触れあい等）（6） 【知る・親しむ】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	1：宇久井半島を活用した海洋教育				3：その年度に応じた海洋教育							
	① 地玉遠足 【知る・親しむ・守る】		➡		② 千尋の浜のクリーン作戦 【知る・守る】			➡		③ 魚食体験 【利用する】		
探求的な活動	2：修学旅行の行程の中で実施する海洋教育											
表現活動	↓ 調べ、まとめ、発表（文化祭）											